

# わたしの好きな よりの

No.151



真下富男さん  
(本村)

玉淀河原沿いにふるさと文学碑歩道があります。この道筋に頌徳碑、記念碑、歌碑、句碑、五線譜付きの歌碑、琴唄の玉淀碑等9基が建てられています。碑文はそれぞれに滋味あふれる名文、墨蹟は幽峯、芳岳、鷹村、無腸、薫、秋香、啓山、天下の名筆揃いです。私はこの碑を朗々と読むこととお勧めします。日本語の素晴らしさ、リズムの美しさに改めて感動することと思います。

霜月は紅葉から落葉、逝く秋に心澄む頃です。草合歡の碑の3首は、季節の移ろいを美しく詩っている、日本歌壇のアララギ派を寄居に根付

夏草の深くも茂る本丸に  
語る哀しさ鉢形城戦史  
出水あとの河原は清く洗はれて  
水ゆたかなるを舟下りゆく  
河鹿鳴く響すがしがし河原に  
かはらははこはいまだ短し

内田 鳥塚 中里  
義 仁 清



くさねむ  
〈草合歡の歌碑〉

かせた3氏を偲び、荒川のせせらぎを聴きながら、この歌を朗読したら、山紫水明のわが町も一層耀くでしょう。

先人の事蹟を顕彰しさらに寄居に杖を曳いた文人たちの足跡をも残すために、文化の香り立つような名碑を建てた先輩に心から敬意を捧げたいと思います。



## わが町の 達人

No.20  
“鑑賞石”探しの達人



工藤信夫さん (茅町)

～自然石 それは自然が造った芸術～  
石に関心を持ち始めたのが昭和40年。玉淀河原で偶然、素晴らしい滝石（溪流滝）を見つけ、埼玉会館で開かれた埼玉水石展に出品しました。それ以来、暇さえあれば糸魚川市へ翡翠探しに通うこと85回。8月に利根川を朝6時から夜7時まで歩き回り、首が真っ黒に日焼けし、1

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

年以上消えなかったこともありました。40余年、関東甲信越方面へ何度も足を運び、探しつづけましたが、思ったようには見つかりません。しかし、素晴らしい紋様石（銘 猿候観月・高さ15cm、横9cm）を見つけ、横浜市の展覧会に出品しました。そこで、紋様石の部で1位になりました。他に円光、荒川石（銘 高砂）、軟玉翡翠と在庫石は約1500個あります。そのうち自慢できるのは30石くらいです。

静岡市方面に真夏に探石に出かけたおりに脱水症状をおこした以外、これという事故もなく、他県で多くの愛石家と知り合うことができました。

自分の宝物として世界に一つ、どんな石でも同じものはありません。大自然の中、河原を散策し銘石を探すということは、健康に良く、自然の恵み、澄んだ空気、小鳥のさえずりを聴く、まさにストレス解消に最高と思っています。左右に置いた一塊の自然石によって心がなぐさめられ、明日への活力が湧いてきます。これから干支展の干支石を探すことを生きがいにしたいと思っています。皆さんも足腰の鍛錬にいかがでしょうか。河原があなたを待っています。



猿候観月



高砂